

入歳

市税がトップで42%を占める

次いで交付税・国庫支出金の順

新年度の一般会計予算五十八億二千四百万円の歳入の内容を

みますと、最も大きな割合を占めているのが市民税、固定資産税、市たばこ消費税、電気税などの市税で四二・六九%、二十四億八千六百二十万二千円とな

っており、前年度比一億一千六百九十万円余の増となっております。

から配分されるものです。

次に多いのが一〇・一六%を占める国庫支出金で五億九千七百七十九万九千円。以下、市債、繰入金、諸収入の順になります。

市民に使われる予算は

県内12市で日光がトップ

次いで地方交付税の八億三百万円（一三・七九%）。この地方交付税は、地方公共団体の収入と財政需要の状況に応じて国

ちなみに、一般会計における

市民の皆さん一人当たりの市税負担額は約十一万二千円で、費やされる予算額は、約二十五万九千円となります。

市民に使われた予算 (58年度一般会計当初予算から)

	1人当たり	1世帯当たり
日光市	252,600円	811,400円
最底	160,300円	548,600円
平均	187,400円	673,300円

(栃木県12市都市統計書から)

なお、昭和五十八年度一般会計の当初予算から算出した市民

一人当たりと一世帯当たりに使われる予算は、表のとおり、県内十二市では日光市が最高となっております。

寸描

日ごろ思うこと



日光市長 齋藤 善蔵

近ごろ、おかげさまで、とか、ありがたう、という言葉が死語になって行くように思えてならない。

人が生活をするうえで、お日様の光や、水を初めとする自然、家族を初めとする社会とのつながりなくしては成り立たない。

なんでも言える自由な時代の中で、とかく自分だけを主張する風潮がなされる故か、

誰かが、何かが、どこかで、有形のあるいは無形の支えをしてもらっているという意識が、感謝の気持ちが欠落してはいないだろうか。

企業の進展も、社会の活性化も、個人の幸福もと考えると、おかげさまで、を素直に言えることが自分の気持ちを豊かにし、自分を含めてその周囲を明るくすることになるのではと思う。

三月定例議会で 決まった 主なもの

固定資産評価委員に

石田 定壽氏

五十九年四月十四日で任期満了になる日光市固定資産評価審査委員会委員、高野忠治氏の後任として石田定壽氏が選任されました。

石田氏は、大正八年三月二十八日生まれ。六十五歳。日光交通安全協会常任理事、人権擁護委員、日光市選挙管理委員会補員などを務めています。
(本町四番一八号)

陳情

採択三件、
継続四件

◎東北新幹線に関する陳情 [採択]

◎農業の空中散布中止に関する陳情 [継続審査]

◎日光市・足尾町を結ぶスカイラインの早期実現に関する陳情 [継続審査]

◎日光市・足尾町を結ぶスカイラインの早期実現に関する陳情 [継続審査]

◎大型小売店誘致に関する陳情 [継続審査]

◎大型店出店阻止に関する陳情 [継続審査]

◎国立病院、療養所の充実強化に関する陳情 [採択]

◎国鉄運賃の値上げと地方線格差運賃導入に反対する陳情 [採択]

条例の制定

特定疾患患者
に見舞金制度

◆特定疾患患者見舞金支給条例
ベーチュット、多発性硬化症、スモン病などの特定疾患患者に年額五千円の見舞金を贈ることになりました。

◆働く婦人の家条例・勤労者体育センター設置及び管理に関する条例
三月に完成した働く婦人の家と勤労者体育センターの運営、管理や使用料などを定めました。

